

# 知恵の樹

No. 164 2012. 1. 18

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 地域文庫にもっと理解を！

ー 成瀬センター建替えに関して かえで文庫の発展を願うー

伊藤 倭子 (かえで文庫)

去る12月21日、例年のように文庫のクリスマス会を催し、楽しくにぎやかにこの場所での最後の「クリスマス会」、平成23年の文庫活動を終えた。お話を聞き、手品を楽しみ、大型紙芝居を見て歌を唄ってささやかなプレゼントを一人ひとりの子どもに手渡し、子ども達35名、大人20余名という大勢の人が楽しんだクリスマス会だった。毎年行事なのに、成瀬センター建て替えという工事が決ってしまった今、不安を抱えながらのクリスマス会であった。

かえで文庫の入っているセンターは、南第二小学校の旧校舎を利用しているもので、昭和45年に建てられた。思えば、32年前成瀬センター開設に当り「是非、ひと部屋を文庫に！」と願い、当時のセンター運営委員会に働きかけ、市の地域対策課や図書館に足を運んで、いろいろ学びながら市の協力を得て文庫設立に至ったのである。

それ以来、図書館の無い地域だから、必要不可欠な場として多勢の子ども達に利用され、我々文庫世話人も公共の大切な預かり物として長年ボランティアで文庫を運営・維持して来た。我々文庫に関わるものは、成瀬センターは子どものた

めの文庫を抱くセンターとして、この特徴ある地域性を誇りに思えた。10年も経てば成瀬に市立図書館が出来るだろうと期待して、それまで、かえで文庫が公共図書館の代わりに子どもたちの読書環境をサポートしていこうという考えであった。

そして、かえで文庫の活動は、平成15年に伊藤忠記念財団より長年の読書推進活動へのご褒美として助成金を受け、また、平成18年度には、読書活動優秀実践団体として「文部科学大臣表彰」を受賞し、町田市からも社会教育団体として表彰されることが決まるなど、地域の方々も温かく支え続けてくれたおかげもあって、公的にも評価された。

しかし、願いつづけた成瀬地域での市立図書館設置は、今だ実現していない。

そんな中で、成瀬センター建て替えの話が突如として耳に入ってきた。古い建物であり、2013年秋からの工事を目標に2011年度は2つの検討組織が発足され、建替えの話が具体的になった。私たちは、建て替えの際には、そこに図書館が欲しいとかねがね思っていたのだが・・・。

「成瀬センター建替え検討委員会」が設置され、

学識経験者1名と地域団体の代表4名、市民団体の代表5名(文庫から伊藤も参加)の10名で構成され、2011年10月から2012年2月まで4回ひらかれる。また公募で参加の利用者や一般市民からなる「成瀬センター作り会議」(市民ワークショップ/27名)も持たれ、かえで文庫の世話人も数名が積極的に会議に加わり、新しいセンターに対しての要望を述べ、図書館の無いこの地域で、今までのように文庫の存続を訴えている。



建替えに関しては、文庫としてお願いを出した。

- ① 近くに図書館が出来ないかぎり今までのように文庫の部屋を確保したい
- ② 建設工事中は同じ敷地内にある学童クラブ跡地にて活動を続けられるように
- ③ 青少年の良き居場所ができるように

センター会議の討論の中では、かえで文庫が一部屋を確保することについての厳しい批判もあったようだ。32年前とは世も変わり、人も変ってきた。新しく建替えられるセンターに対しての要望も様々に限りが無い。文庫は週2日開室の図書室であるが、地域の子どもにとっては、読書のためだけではない家庭のようにホットできるオアシスでもある。子どもが本を読むようになるには、本があって、本に楽しく誘う人がいる場所としての地域文庫が、今の時代こそ求められているのではと思う。十分話し合って、子どもも大人も含めたコミュニティとしての、良き住民の場が出来たらと願う。

新しいセンターの基本理念は、「老いも若きも皆で継ぐ場／広く明るく落ち着ける場／自由にまた来れる支えあいの場／備え万全頼る施設に／家庭のように人と人とのつながりを」と謳っている。

ワークショップも1月22日に開かれた5回目で終わり、検討委員会も2月2日の4回目の会合で

終わりとなる。2つの会から出された要望がほぼまとめられ、設計イメージ図の概略も出来てきた。かえで文庫の設置は何とか保たれそうなものの、今までのスペースよりぐっと狭くなりそうでキッズコーナーと隣接して描かれている。まずは、場を確保してくれたことに感謝したい。

ところが、昨年11月に入って耐震検査をした結果、現在の建物が使用不可の判断が出され新たな問題が発生した。2012年の2月からは使用出来ないということになり、当然かえで文庫もセンターを急遽離れなければならなくなったのである。新センター完成の2015年迄の3~4年間、文庫は沢山の本を抱えて出ていかねばならなくなった。いったい何処へ行けというのだろうか？ 毎週文庫を楽しみにしている子どもたちに、どう説明すればよいのだろうか？ 市当局は、文庫の行く先を当っているので待つようにとのことで、何処にあたってくれているのか、皆目見当がつかない。

先行きの見えない不安を抱えながら、落ち着かない2012年を迎えた。1月11日には文庫のかるた会とお茶会を開いたが、子ども達は変わらず、いつものいたずらっ子が神妙にお茶を頂き、カルタとりを楽しんでいた。こんな様子もこの場所ではもう見られないのかと思うと胸が熱くなる。次々と母親たちも来室して、かえで文庫の行き先を心配してくれた。

建て替えまでの文庫活動はどうなるのか……。新しいセンターでの、かえで文庫はどうなるのか？ まだ随分先のこととなるが、どうか子どもから高齢者までが楽しく学び安心して集える場が出来ますように！ そして、かつて町田市内の各所で、「子どもに、より近くで読書の喜びを！」と、図書館の発展にも大きな影響を与えたような活気ある地域文庫が、再び元気を出して活動出来ますように、と願わずにはいられない。

(本会団体会員かえで文庫代表/本会会員)

## 「有山崧生誕 100 周年記念集会」に参加して

於：2011 年 11 月 28 日／実践女子大学香雪記念館

私に関わっている「野津田雑木林の会」は、団体会員として「町田の図書館活動をすすめる会」に加入しています。子どもと本と自然をつなぎたいと、図書館の運営企画に期待するところが大きく、月々の定例会に出席していますが、その席で度々お名前を耳にし、著作にも目を通して学ぶことの多かった前川恒雄さん(日野市立図書館初代館長)が基調講演をされる「有山崧生誕 100 周年記念集会」が開催されることが知らされました。

基調講演のテーマは、前川恒夫氏による「有山崧から何を学び、何を生かすか」。そのあと、有山至氏(崧氏長男)、松岡要氏(日本図書館協会事務局長)、山口源治郎氏(東京学芸大学教授)、渡辺生子氏(日野市立図書館)をパネラーに迎えて、森下芳則氏(田原市図書館前館長)の司会で、パネルディスカッション「有山崧の視点から、いま図書館を問う」が行われる。

2011 年 3 月の大震災より後、「もともとから考えなおしてみたい」という思いが心の奥を占めている私です。「行ってみよう」と思いました。

来賓として日野市長の挨拶が行われた後、壇上に立った前川氏は有山氏の歴史に残る“業績”をならべ、“人となり”を語りました。

「有山は、日本社会全体について使命感を持っていた。そして、日野の図書館をつくった。何が正しいか、何が正しくないか、基本の考えをしっかりと持って、やるべきことはちゃんとやり、やっていけないことはやらなかった。市長としても」前川氏のシンプルなことばが、私の中に残りました。

「図書館に対する自由の宣言を、決議するところまで持っていった」という、ひとつの業績さえ、その時代にはどんなに困難なことであったか、想像は難しくありません。すごい人がいたんだな…と。でも、その人は単独にあったのではなく、少数の同じ志を持つ人の中において自身の志を上昇させ

ていった事がわかりました。

前川氏は、最後に自分のいまの思いを伝えました。「東日本大震災という国難ともいわれる大事件がありました。どの自治体にも影響を与える。図書館にも。見通しが持てない」

「政治状況も、民主主義が育つかどうか。図書館の自由が守られるかどうか、私は不安があります」「市民は広い視野、豊かな知識を持つ図書館員を求めている」等々。

パネルディスカッションでは、図書館が現実にもどのように関わっていくか、「まちづくり」が熱く語られました。そして、「残念ながら、日野の図書館は長期低落傾向。芽は、あったが…」「日野がやったことで、いま、忘れてはいけないことは何か。『市民の図書館』『全市民へのサービス』『市民と図書館をつなぐ回路』——それが、いま、形骸化してきているのではないか」というコメントも。

後日、私は会場で入手した『有山 没後 30 周年記念集会／報告集』(2000 年発行)に目を通しました。図書館を取りまく状況も、課題も、「変っていない」と感じました。「変っていない」ことに肩を落とすのですが、でも、問題がクリアに浮き彫りにされたのは、この集会に足を運んだ私のトク。図書館も公園も、公の網をかぶった市民のもの。「市民の宝物といえるほどに魅力を持つ場に——市民と行政で考えていきたい。同志とつながらなければ」と、心に小さな火を点じたことでした。

(当会会員:久保礼子)



## 第1回



# まちだ としょかん 子どもまつり —本はともだち—

中央図書館で、市民と協働で「子どもまつりをしよう」という話が具体化され、プログラムが決まりました。楽しい催しがいっぱい！どうぞふるって親子でご参加ください。詳しいリーフレットは、1月末にできます。

## 2012年

3月29日(木) 11:00~12:00 6階ホール  
母と子のわらべうたあそび

《かえで文庫・おはなしぐるんぱ》

ゆやまあきこ  
柚山明子さんを迎えて、美しい日本の言葉をわらべうたにのせて楽しいひとときをすごしましょう。

★連絡先 伊藤：042(725)3940、  
砂川：042(729)8728

3月30日(金) 10:30~、11:30~  
4階おはなしのへや 《柿の木文庫》

おはなし会

10:30~ 小さいお子さん(0歳~3歳)向け

11:00~ 幼児~小学低学年向け

皆さん、いっしょに楽しみましょう。大人の方もどうぞ。★連絡先 谷釜：042(735)6044

3月30日(金) 13:30~、14:30~  
4階おはなしのへや 《おはなしもへい》

おはなしかい 道具(紙)をつかったお話・紙芝居・語り・絵本読み聞かせ、幼児から低学年の方、どうぞ。

★連絡先 中沢：042(726)4988

3月31日(土) 10:30~、11:30~  
4階おはなしのへや

《語りの会 マザーリーフ》

おはなし会 「おひさま、いっぱい~い！笑顔がいっぱい~い！春のおはなし、いっぱい用意してまってる~す！！」

手あそび、紙芝居、絵本、おはなし、わらべうた赤ちゃんから大人の方まで。

★連絡先 吉本：042(727)9230

3月31日(土) 14:00~16:30 6階ホール  
「音読と朗読と」 《花いかだ》

=文章を声を出して読もう=朗読「鼓くらべ」他、対象年齢 10歳~18歳と大人

物語、随筆、詩、うた、句、いろいろな言葉、文章は声をだして読みましょう。そして、表現にも挑戦しましょう。

3月31日(土) 13:00~、15:00~  
4階おはなしのへや

《町田ブックトークの会》

ブックトーク(内容は未定) 対象 小学生  
お話をしながら楽しく本を紹介していきます。

★谷釜房子：042(735)6044

4月1日(日) 10:30~、11:30~  
4階おはなしのへや

未定 《NPO まちだ語り手の会》

★事務局 Tel&Fax 042(795)3022

4月1日(日) 14:00~16:00 6Fホール  
講演会「絵本と鳥の巣のふしぎ」鈴木まもる氏  
《町田の学校図書館を考える会》

不思議な鳥の巣の実物をたくさん持ってきて展示、スライドあり、絵本原画ありのたのしい講演会で、小学生から大人まで楽しめます。



# 文科省学校図書館交付金 閣議決定

平成24年度からの学校図書館関係の地方財政措置が以下のように決まりました。

「生きる力」を育むという理念の下、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成を重視する新学習指導要領が全面実施される中、「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館の機能向上が必要、新学習指導要領では新聞を教材として活用することが位置づけられており、こうした学習を行う環境を整備するため、学校図書館への新聞の配備が求められている、図書整備とともに、児童生徒と本をつなぐ役割を果たす学校図書館担当職員（いわゆる「学校司書」）の学校図書館への配備が求められている、といった観点から、

1. 平成19年度からスタートした「学校図書館図書整備5か年計画」で、学校図書館図書標準を達成した学校の割合は増加したが、十分な水準には達していない

→ 平成24年度からの5年間で学校図書館図書標準の達成を目指す

**財政規模 約200億円(5か年計 約1,000億円)**

ちなみに町田市では、図書標準達成率は、小学校で約半数が100%達成、中学校では僅か15%が達成という結果です。しかし蔵書点検が必ずしも正確に行われていない現状を考えると、この達成率が信頼に足るものであるかどうかの疑問が残りますが…。

2. 学校図書館に新聞を配備している学校は、小学校で約17%、中学校で約15%であり、各学校で新聞を活用した学習を行うための環境は十分ではない。

→ 学校図書館への新聞配備 **財政規模約15億円(5か年計 約75億円)**

ちなみに町田市では、中学校には朝日・読売・毎日の3紙が土日をのぞく平日、全学級に配布されています。図書館にも配備済みです。小学校については不明。

3. 厳しい財政状況の中、学校図書館担当職員を配置する学校は近年一貫して増加、その必要性が強く認識され始めている。

平成17→22年度、小学校 31.5%→44.8%、中学校 32.5%→45.2%

→ **学校図書館担当職員(学校司書)の配置のための財政措置 約150億円**

**小学校約9,800人、中学校約4,500人配置分(単価約105万円)**

今回のこの措置は画期的なものです。今まで「人」に対する財政措置がなかったのが、はじめて学校司書の必要性を認め、国レベルでの財政措置に踏み切ったということです。

ちなみに町田市では、もちろん学校司書は置かれていません。前回ご報告したとおり、12月市議会でようやく請願が採択されたものの、その必要性を十分に理解している人が行政に果たしてどのくらいいるのかは、はなはだ疑問です。文教委員会での市教委の回答でも、学校司書についての議員からの質問に対して、司書教諭と間違えて答えており、それを誰も訂正もしなかったことから、学校司書のなんたるかをほとんど理解していないといわざるを得ない、お寒い状況です。この国レベルでの予算措置を追い風にして、町田でも学校司書配置へと大きく前進したいと考えています。

(町田の学校図書館を考える会 水越規容子)





# ひろば

〈例会報告〉 12/21(水) 16:30~  
会報印刷 (伊藤・玉目・丸岡・水越)  
例会 18:00-20:15

出席者：伊藤、久保、鈴木、玉目、手嶋、  
増山、丸岡、水越、山口、山根、山本

## 【図書館協議会について】

- ・議事録のアップが遅い。まとめるとなると時間がかかるのはわかるが遅すぎる。ポイントだけでもせめて1カ月後くらいには見られるようにしてほしい。次回会議出席前に前回の議事録が確認できるようにしたい。
- ・すすめる会と協議会との関係・・・すすめる会からの推薦という形で協議会委員を出しているが、会(市民)の意見を反映するためには、個人的な発言というよりは、会で出た意見を持っていくスタンスがよいのでは。協議会での討議事項を、すすめる会で話し合っただけで市民の意見を協議会に反映させることを、今後していきたい。協議会の議題など、すすめる会にも流して欲しい。

## 訃報

### 松野幸雄さん、さようなら！



町田市立図書館職員として職業人生を全うし、定年後は自由にのんびりとした生活を楽しみ、今まで蓄積した資料を基に本を書きみたいとおっしゃって、秦野での一人暮らしを楽しんでおられた松野幸雄さんが、たった1年もたたないうちに大腸癌を患い、闘病生活に入られて、1月6日、62歳という若さで他界されました。

13日の告別式では、松野さんが好きだった中島みゆきの歌「地上の星」が静かに流れるなか、お別れの献花が行われました。棺の中には、思い出の品々が置かれ、その中に、図書館を去られる時のものでしょうか、後輩たちが寄せ書きされた「松野主査ありがとうございます！」の色紙が、松野さんの亡骸に寄り添うように置かれ、さびしそうにひときわ目を引きました。

この日は、雲一つない、透き通るような青い天空。そこに、松野さんは逝ってしまわれました。

本会前身の「市立図書館をよりよくする会」の発足時から、組合一員としてこの会に関わり、図書館見学の際にはご自慢の車に乗せてもらったり、定年後は個人会員として加わっていただき、会報に原稿を寄せてもらうなど、大変お世話になりました。

ありがとうございました！そして、さようなら！

(増山)

2011年度 第11回 文学館(主催)で楽しむ

## おとなのためのおはなし会

2月16日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算57回)

- \*町田ゆかりの作家「若林登」丸岡和代
  - \*「雪むすめ」(山形の昔話) 小山千鶴子
  - \*「ゾウのピクニック」(リチャード・ヒューズ作) 平田えり子
  - \*「石心臓姫」(ジェイン・ヨーレン作) 伊藤倭子
- 直接会場へどうぞ！ 無料 保育有  
(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

- ・図書館評価・・・現在は1回目の外部評価および図書館の自己評価公開の段階。評価するにあたって、評価項目の立て方そのものにもいろいろ意見があることから、次年度の評価項目や目標を考える段階から市民が関わっていくようにしたい／細かいことばかりに目を向けるのではなく、全体的な評価をする必要があるのでは？／図書館評価そのものを評価する、ということも考えていいのでは？／次回協議会(1/17)では、次の評価項目の素案を出してほしいと要望している。翌日あるすすめる会の例会で、それを議題に話をしてはどうか？ 協議会委員が、資料を用意する。

## 【会の運営、その他について】

- ・会則に「事務局を代表宅におく」とあり、代表が細かい事務局の仕事も担っていて肩の荷が重い。代表の仕事分散して、誰でも代表受けやすいようにしたい。代表と事務局を分けることを考えたいが・・・
  - ・会報・・・図書館関係の情報を送るために今後も力を入れ、会報を市の職員幹部やメディア関係者にも届ける努力をしたい。現在、記事内容・編集などをほぼ一人で担っており、大変な作業で責任が重い。編集スタッフを構成し、掲載内容等話し合う時間が欲しい。皆で会報に関心を持ち、関わるという努力を！
  - ・例会の持ち方について・・・討議事項を事前に会のMLで知らせ、司会進行を持ち回りでやりたい(→本日はレジュメを用意。司会進行は、水越)。
  - ・会の30周年記念誌について・・・あと2年で30周年。5周年記念誌を出して以来、記録誌が出ていないので、ぜひ編集委員を募って取り掛かっていきたい。これまでの「市民と図書館の動き」の年表を、増山の方でまとめているので、活用できたらと思っている。
- 後記 編集体制を作り、会員の皆様の協力を得て、図書館発展のための情報紙を発信したいと思います。会のメーリングリストをご活用いただき、どしどし情報をお寄せください。今年もよろしくお願ひします。(M)